

## ベナン共和国 A 保健センターにおける母親学級導入の実践報告

阿部文絵

新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】サブサハラ以南アフリカ諸国では医療水準指標の代表である妊産婦死亡率が非常に高い。すなわち、多くの女性が妊娠や出産に関連した理由で死亡している。

サブサハラ以南アフリカ諸国のひとつであるベナン共和国ではミレニアム開発目標で指標とされていた妊産婦死亡率は 350 (出生 10 万対：目標 125) と目標値に遠く届かず、母子保健サービスの改善が喫緊の課題とされている。JICA は、日本で成果を上げたと言われる「母親学級」手法をベナン共和国保健省と協働し、2009 年から技術移転を開始したが、十分な定着へは至っていない。

今回、筆者は青年海外協力隊・看護師隊員として母親学級のパイロット地域にある公的医療機関 A 保健センターに配属された。そして、カウンターパート (同僚・助産師) 1 名を母親学級の第三国研修に送り出した。その後、研修を受けた助産師が中心となり、どのようなプロセスを辿り、自らの手で母親学級の導入に至った結果を実践報告する。

【方法】筆者は派遣されていた A 保健センター産科に“観察者としての参加者”として身を置き、フィールドノーツを書き残した。母親学級は妊婦健診に来た妊婦を対象に招待状を配布し、妊婦初期・妊娠中期・妊娠後期・出産後の時期に合わせた 4 回シリーズで構成した。母親学級の前提となる妊婦健診業務における変化が大きかったため、『実践準備期間』『実践前期』『実践中期』『実践後期』と期間を分けて帰納的に分析した。

【結果】フィールドノーツから 246 個のデータを分析した結果、8 カテゴリー【 】と 30 サブカテゴリー< > が表 1 の通りに抽出された。

### 【考察】

1. 導入準備期間／他者の成功を妬む習慣がある中で、【自ら行動を起こし、協力者と模範施設を確保し準備をする】行動を起こしている。ベナン国内での類似性の高い、かつ先駆的な模範施設への見学が“代理体験”となり実現へ近づけたと考えられる。
2. 実践前期／【試行錯誤による実践】が実現し、妊産婦からの【実践による手応え】を感じ継続する中で、妊婦健診の多忙さと顕著な医療従事者の不足といった【促進および阻害する職場環境】が示唆された。
3. 実践中期～後期／【同僚助産師の参画】【発展に向けた自発的な工夫】によりオリジナリティを含んだクラス展開へ変化したと考えられる。また、ガイドラインの範疇を超

えた【理想的な妊産婦への関わりの実現】へ“私たちの妊婦”と愛情を込めた呼び方へ変化させたのは、彼女たちが根底的に持つ【助産師としての使命感】ではないだろうか。

### 【結論】

1. 導入準備期間／現地の習慣を十分に理解した上で、現地の人々の手で着手し、類似性の高い、模範施設への見学が効果的である。
2. 実践前期／多産である国では産科業務の大半を占める妊婦健診の整理が、母親学級導入には重要となる。
3. 実践中期～後期／母親学級の導入は母子への健康教育となるだけでなく、助産師自身の行動変容に繋がった。これは WHO の提唱する「施設分娩中の軽蔑と虐待の予防と撲滅」と「ポジティブな出産経験のための出産ケアガイドライン」に沿った継続的なケアに向けて、母親学級が重要な役割を成すとと言える。

表 1. 分析結果

『導入準備期間』
【自ら行動を起こし、協力者と模範施設を確保し準備する】
<自発的に準備に向けた行動を起こした> <見学先でベナンにおける母親学級を知る> <他者の成功を妬む習慣> 他
『実践前期』
【試行錯誤による実践】<事前の見学やガイドブックを踏まえて試行錯誤しながら一人でも実現> <柔軟な工夫による発展の試み> 他
【実践による手応え】<招待者への親しみと習慣への受容> <受講者から母親学級の需要を感じ継続を選ぶ> <関係性が構築する> <開講の責任と受講者への親しみを持つ> 他
【促進および阻害する職場環境】<実践を阻害する職場環境> <認められる人の存在> 他
『実践中期』
【同僚助産師の参画】<助産師二人体制で開講に取りかかる> <複数の助産師によって内容を発展させながら母親学級を継続する> <継続を支える環境が整いつつある> <対象地域での研修会の機会> <人員不足> <阻害する要因がある環境> <上司の指示により増えた健診業務へ対応する> <妊婦健診における仕事の整理>
【発展に向けた自発的な工夫】
<助産師 C の主体的な開講による新しいアイデアの導入> <受講者の理解度に合わせたクラス展開> <人材や資料を有効に活用する>
【理想的な妊産婦への関わりの実現】
<妊婦に対する関わり方の変化> <母親学級がコミュニケーションの場となる> <母親学級導入から波及した職場環境改善の取り組み>
『実践後期』
【助産師としての使命感】<“私たちの妊婦”という身内のような親近感> <母親学級を開講できる環境に整える>

### 【文献】

- 1) 佐藤郁哉：フィールドワークの技法，新曜社，2015。
- 2) Ministère du Développement, de l'Analyse Économique et de la Prospective Institut National de la Statistique et de l'Analyse Économique (INSAE) Cotonou, Bénin: Enquête Démographique et de Santé (EDSB-IV), 2011-2012: 43, 2013.
- 3) 松野瑠衣，森淑江：西アフリカ仏語圏諸国の分娩介助に関わる人材の概要，国際保健医療，31: 123-135, 2016。